

豚の主な品種

大ヨークシャー種

【Large Yorkshire
または Large White】



©独立行政法人 家畜改良センター

体の特徴

皮膚は白色。成体の体重は350～380kg程度。

発祥地・肥育エリアなど

イギリスのヨークシャー州地方において、在来種に中国種、ネアポリタン種、レスター種などを交

配して1870～1880年頃までに成立。

イギリス、アメリカ、スウェーデン、オランダ等において広く飼育されており、日本においてもイギリス、アメリカから輸入され、主として繁殖豚として利用されている。

特徴

ベーコンタイプの代表的な品種。繁殖能力に優れていて、一腹あたりの生産頭数が多い。肉質は、赤肉と脂肪の割合に均衡が取れており、加工品の原料として高い評価を得ている。

ランドレース種

【Landrace】



©独立行政法人 家畜改良センター

体の特徴

毛色は白色。成体の体重は350～380kg程度。

発祥地・肥育エリアなど

デンマークの在来種に大ヨークシャー種を交配して成立。

デンマーク、イギリス、オラン

ダ、スウェーデン等において多く飼育されている。

日本においてもイギリス、オランダ等から輸入され、純粋種では最も多く飼育されている。

特徴

産子数が多く、泌乳量も多くて育成率が高いため、繁殖能力に優れている。

肉質としては、背脂肪が薄く赤肉率が高い。現在、各国で改良が進められている。

デュロック種

【Duroc】



©独立行政法人 家畜改良センター

体の特徴

皮膚は褐色（固体によって濃淡がある）。成体の体重は300～380kg程度。

発祥地・肥育エリアなど

アメリカのニューヨーク州、ニュージャージー州を中心とした

東部地方が原産地。

アメリカで多数飼育されている。
日本では、実用豚生産のための雄型品種として利用されるのが一般的である。

特徴

性質はおとなしく、体質強健。
産子数も多く、放牧に適している。

普通豚（三元交配豚）

- 国内で生産・流通している大半が、以上の3種類の品種を交配した普通豚（三元交配豚）である。
- 繁殖性、産肉性、肉質のバランスをとるために、3種類の純血種を掛け合わせる。
- 国内では、伝統的に、繁殖性の優れたランドレース種（L）と大ヨークシャー種（W）を掛け合わせた交配豚（LW）を子取り母豚とし、さらに肉質の優れたデュロック種（D）を掛け合わせた交配豚（LWD）を肥育したものが主流である。
- 通常、生後180～190日齢、体重105～110kgで出荷される。

バークシャー種 【Berkshire】



■ 体の特徴

皮膚は黒色だが、四肢・鼻・尾の先に白はんを持つ。成体の体重は200～250kg程度。

■ 発祥地・肥育エリアなど

イギリス西部バークシャー地方とウィルツシャー地方の在来種にシアメース種、中国種、ネオポリタン種などを交配して成立。

日本では鹿児島地方に多く飼育されており、「黒豚」の名で親しまれている。

■ 特徴

体質強健で産子数はやや劣るが、哺育は巧みである。

肉質、脂肪質ともに優れており、生肉用に適している。

ハンプシャー種 【Hampshire】



■ 体の特徴

体は黒色で、肩から前肢にかけて幅10～30cmの白帯を持つ。成体の体重は250～350kg。

■ 発祥地・肥育エリアなど

アメリカのケンタッキー、マサチューセッツ州が原産地。

アメリカで多数飼育されている（登録頭数が最も多い）。

日本では、主として交配用の種雄豚として多く利用されている。

■ 特徴

産子数はやや少ないが、哺育能力に優れ、発育、飼料効率がよい。

背脂肪が薄く、筋肉量が多く、もも肉も充実しており、肉質としては良好である。